「環境にやさしいこと、
環境に良いことしてありますか？」
～とやまの美しい森・里・川・海を未来に残すために～

調査報告書

平成 28 年 12 月

富山県消費者協会・富山県消費生活研究グループ連絡協議会

はじめに

富山県消費者協会 会長 尾畑 納子

今年5月に開催されたG7富山環境大臣会合では、「気候変動」や「海洋ごみ」など7つのテーマについて意見交換が行われ、なかでも、「資源効率性・3R」のテーマについては、国際的に連携して資源や廃棄物の有効利用を進める「富山物質循環フレームワーク」が採択されました。これは、レジ袋の無料配布廃止や「とやまエコ・ストア制度」などの本県の取組みが評価され、「富山」の名前が冠されたと聞いています。

こうしたことから、今後は、このフレームワークに具体例として挙げられている「食品ロス・食品廃棄物削減」に向けて、ごみのリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）、いわゆる「3R」などをさらに進めていく必要があります。

そこで、本年度は、「環境にやさしいこと、環境に良いことしていますか？～とやまの美しい森・里・川・海を未来に残すために～」をテーマに、消費者の視点から、一人ひとりが環境に負荷をかけない行動、環境を保全する行動をとるために何が必要なのかについて、県内全域にわたって調査を実施しました。

幅広い年齢層から、環境保全に関する認識、行動、行政や事業者に望むことなど、多くの声が集まりました。これらの情報が有効に活用され、皆様方一人ひとりの日常の行動を変えていく一助となれば幸いです。

富山県消費生活研究グループ連絡協議会 会長 山本 暁子

皆様方には、毎年のアンケート調査にご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

今年度の調査は、G7富山環境大臣会合の開催をきっかけとして、今後、追加的な地球温暖化対策をとらない場合は、本県でも21世紀末に平均温度が5℃程度上昇する可能性が予測されるという状況下で、一人ひとりの日常の行動を変えていこう、社会の仕組みも変わってほしい、という思いを込めて実施しました。

アンケート結果からは、「二酸化炭素等による地球の温暖化に関心がある人」が9割を超える一方で、「環境保全活動に参加していない人」が4割に近いという結果も出ました。

また、自由意見には、「現状・課題・対策等について県民に分かりやすく情報発信してほしい」「学校での取り組みも重要」「働く女性が多い本県では手間のかからない対策も重要」など、環境改善に向けての取り組みについて、たくさんの意見が寄せられました。

今後、このアンケート結果をもとに、レジ袋削減のように、一人ひとりが環境保全に積極的に参加してもらえるよう取り組みを進め、また、行政や事業者に対しても働きかけていきたいと思えます。

アンケートの実施に当たりましては、皆様方をはじめ、富山国際大学や県立大学の学生さんなど、多くの皆様のご支援をいただきまして、かさねて感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

調査目的、調査時期、調査対象	1
----------------	---

II 回答者の属性

性別、年代、職業別、世帯人数	1
----------------	---

III 調査結果の概要

1 社会問題、環境問題への関心

(Q1) 環境問題を含めた社会問題について、あなたが特に関心を持っていることを選んでください。(5つまで)	2
(Q2) あなたは次の環境問題について、どの程度関心をお持ちですか。	4
(Q3) あなたの周辺の環境で、5～6年前に比べて変化していると感じることがあれば、を選んでください。(いくつでも)	8

2 日常の取組み

(Q4) 日常生活において、環境にやさしい生活をするために、あなたが実行していることを選んでください。(いくつでも)	9
(Q5) 家庭で取り組める省エネ対策について、効果的と思うものを選んでください。(いくつでも)	11
(Q6) あなたは、どのような環境保全活動に参加していますか。(いくつでも)	13
(Q7) Q6の質問で、環境保全活動に参加していると答えられた方にお聞きします。あなたが参加している環境保全活動の形態を選んでください。(いくつでも)	14
(Q8) Q6の質問で、環境保全活動に参加していると答えられた方にお聞きします。あなたがその活動に携わって、良かったと思うことはなんですか。(いくつでも)	15

3 環境保全に対する取組み

(Q9) 先進7か国富山環境大臣会合では、資源効率性・3Rの推進の具体的な対策として、食品ロスの削減に取り組むことが合意されましたが、食品ロスを削減するため、買い物の際に実践していることを選んでください。(いくつでも)	17
(Q10) 食品ロスを削減するため、調理・食事の際に実践していることを選んでください。(いくつでも)	18
(Q11) 家庭から出るごみを削減するのに効果的と思うものを選んでください。(2つまで)	19
(Q12) 今後、富山において環境保全に対する取組みを推進する上で、あなたが、行政や企業に望むことは何ですか。(いくつでも)	20

IV まとめ	22
--------	----

V 回答者の意見	24
----------	----

VI 調査票	34
--------	----

環境にやさしいこと、環境に良いことしていますか？

～とやまの美しい森・里・川・海を未来に残すために～

I 調査の概要

◆調査目的

地球の環境を守るための先進7か国環境大臣会合が富山県で開催されました。その中で、持続可能な社会の目標達成に向けて各国で取り組むことが合意され、また地域での取組みの重要性も確認されました。

かけがえのない地球環境を守るためには、一人ひとりが自主的で積極的に環境に負荷をかけない行動や環境保全活動への参加が求められます。持続可能な社会を形成していくために、私たちは、今後何をしていくべきかを模索するためにアンケート調査を行いました。

◆調査時期： 平成28年6月下旬～7月下旬

◆調査対象： 県内在住者

配布部数	2,034人
回収部数	1,783人
回収率	87.7%

II 回答者の属性

性別

年代

職業別

世帯人数

Ⅲ 調査結果の概要

1. 社会問題、環境問題への関心

Q1.環境問題を含めた社会問題について、あなたが特に関心を持っていることを選んでください。(5つまで)

(1) 全体では

「地震など自然災害に関すること」は56%、「地域の生活環境に関すること」は49%、次に「地球温暖化など地球規模の環境に関すること」43%が続いている。

(2) 年代別では

「地震など自然災害に関すること」は50代、60代が高い。「地域の生活環境に関すること」は70歳以上で高い。「地球温暖化など地球規模の環境に関すること」は20歳未満と50代で高い。「子育て支援・子どもの教育に関すること」は30代が高い。「地域医療や福祉に関すること」は70歳以上が高い。

年代	人数	項目										
		地震・豪雨・噴火など、自然災害に関すること	ごみや大気・川の汚染など、地域の生活環境に関すること	地球温暖化やオゾン層の破壊に関すること	原子力発電や太陽光発電に関すること	経済の活性化や就職支援など、経済・労働環境に関すること	医療機関の充実など、地域医療や福祉に関すること	子育て支援・子どもの教育に関すること	保育サービスの充実や学力向上など、少子化対策に関すること	公共交通や自主防災活動・防犯対策など、生活の利便性・地域コミュニティ・犯罪防止に関すること	森林の荒廃や野生動物の保護など、自然環境に関すること	その他
20歳未満	491人	263 54%	256 52%	234 48%	180 37%	153 31%	111 23%	124 25%	81 16%	180 37%	2 0%	
20代	217人	122 56%	91 42%	86 40%	71 33%	74 34%	80 37%	81 37%	52 24%	69 32%	2 1%	
30代	168人	81 48%	60 36%	45 27%	57 34%	75 45%	74 44%	89 53%	58 35%	35 21%	0 0%	
40代	259人	140 54%	98 38%	96 37%	116 45%	127 49%	107 41%	113 44%	90 35%	70 27%	2 1%	
50代	249人	153 61%	128 51%	119 48%	129 52%	123 49%	95 38%	70 28%	106 43%	57 23%	4 2%	
60代	218人	142 65%	127 58%	101 46%	111 51%	81 37%	103 47%	71 33%	93 43%	61 28%	3 1%	
70歳以上	163人	87 53%	114 70%	74 45%	69 42%	49 30%	91 56%	43 26%	85 52%	50 31%	1 1%	
無回答	18人	9 50%	4 22%	8 44%	4 22%	6 33%	7 39%	6 33%	5 28%	5 28%	0 0%	
全体	1,783人	997 56%	878 49%	763 43%	737 41%	688 39%	668 37%	597 33%	570 32%	527 30%	14 1%	

(3)男女別では

「地震など自然災害に関すること」「地域の生活環境に関すること」「少子化対策・子育て支援・子どもの教育に関すること」は女性が高い。「エネルギーに関すること」「経済・労働環境に関すること」は男性が高い。

男女別	人数	項目													
		地震・豪雨・噴火など、自然災害に関すること	ごみや地域の生活環境に関すること	地球温暖化やオゾン層の破壊に関すること	地球温暖化やオゾン層の破壊に関すること	原子力発電や太陽光発電など、エネルギーに関すること	経済の活性化や就職支援に関すること	医療機関の充実など、地域	子育て支援・子どもの教育に関すること	向上など、少子化対策や学	保育サービスの充実や学	防犯対策など、生活の利便	公共交通や自主防災活動、	保護など、自然環境に関すること	森林の荒廃や野生動物の
男性	673人	349 52%	317 47%	283 42%	368 55%	301 45%	204 30%	177 26%	199 30%	212 32%	8 1%				
女性	1,093人	639 58%	558 51%	474 43%	363 33%	383 35%	456 42%	415 38%	368 34%	310 28%	6 1%				
無回答	17人	9 53%	3 18%	6 35%	6 35%	4 24%	8 47%	5 29%	3 18%	5 29%	0 0%				
全体	1,783人	997 56%	878 49%	763 43%	737 41%	688 39%	668 37%	597 33%	570 32%	527 30%	14 1%				

(4)職業別では

「地震など自然災害に関すること」は自営・自由業が高い。「地域の生活環境に関すること」は家事従事者・無職が高く、「経済・労働環境に関すること」は給与生活者が高い。

職業	人数	項目													
		地震・豪雨・噴火など、自然災害に関すること	ごみや地域の生活環境に関すること	地球温暖化やオゾン層の破壊に関すること	地球温暖化やオゾン層の破壊に関すること	原子力発電や太陽光発電など、エネルギーに関すること	経済の活性化や就職支援に関すること	医療機関の充実など、地域	子育て支援・子どもの教育に関すること	向上など、少子化対策や学	保育サービスの充実や学	防犯対策など、生活の利便	公共交通や自主防災活動、	保護など、自然環境に関すること	森林の荒廃や野生動物の
給与生活者	773人	452 58%	324 42%	295 38%	347 45%	359 46%	315 41%	308 40%	281 36%	167 22%	6 1%				
自営・自由業	48人	31 65%	26 54%	21 44%	22 46%	14 29%	17 35%	16 33%	26 54%	21 44%	0 0%				
家事従事者	140人	83 59%	94 67%	77 55%	61 44%	48 34%	63 45%	49 35%	58 41%	41 29%	1 1%				
学生	599人	321 54%	308 51%	288 48%	213 36%	191 32%	154 26%	155 26%	106 18%	221 37%	5 1%				
無職	150人	88 59%	94 63%	57 38%	62 41%	52 35%	88 59%	42 28%	70 47%	48 32%	2 1%				
その他	26人	8 31%	15 58%	6 23%	11 42%	11 42%	8 31%	9 35%	17 65%	11 42%	0 0%				
無回答	47人	14 30%	17 36%	19 40%	21 45%	13 28%	23 49%	18 38%	12 26%	18 38%	0 0%				
全体	1,783人	997 56%	878 49%	763 43%	737 41%	688 39%	668 37%	597 33%	570 32%	527 30%	14 1%				

Q2. あなたは次の環境問題について、どの程度関心をお持ちですか。

(1)全体では

「非常に関心がある」は、「再生可能エネルギーの活用」「放射性物質などの越境汚染問題」であり、一方、「関心がない」のは、「地下水の汲み上げによる地盤沈下」である。

(1)年代別・男女別では

「二酸化炭素などによる地球温暖化」は60代が高く、30代が低い。「不法投棄や廃棄家電などのごみ処理やリサイクル」について「非常に関心がある」は60代以上が高く、「関心がない」は30代以下が高い。

「再生可能エネルギーの活用」について「非常に関心がある」は男性が高い。

	人数	太陽光・水力・風力発電などの再生可能エネルギーの活用				放射性物質・黄砂・PM2.5などの越境汚染問題				
		が非常に 関心 がある	関 心 が あ る	関 心 が な い	無 回 答	が非常に 関心 がある	関 心 が あ る	関 心 が な い	無 回 答	
年代	20歳未満	491人	175 36%	253 52%	57 12%	6 1%	132 27%	286 58%	69 14%	4 1%
	20代	217人	55 25%	132 61%	27 12%	3 1%	59 27%	137 63%	20 9%	1 0%
	30代	168人	41 24%	104 62%	19 11%	4 2%	62 37%	86 51%	18 11%	2 1%
	40代	259人	77 30%	154 59%	17 7%	11 4%	73 28%	158 61%	22 8%	6 2%
	50代	249人	84 34%	137 55%	22 9%	6 2%	72 29%	157 63%	16 6%	4 2%
	60代	218人	75 34%	109 50%	16 7%	18 8%	89 41%	107 49%	6 3%	16 7%
	70歳以上	163人	54 33%	72 44%	14 9%	23 14%	63 39%	68 42%	9 6%	23 14%
	無回答	18人	6 33%	9 50%	0 0%	3 17%	7 39%	8 44%	0 0%	3 17%
男女別	男性	673人	276 41%	330 49%	49 7%	18 3%	199 30%	391 58%	69 10%	14 2%
	女性	1,093人	283 26%	632 58%	122 11%	56 5%	352 32%	606 55%	91 8%	44 4%
	無回答	17人	8 47%	8 47%	1 6%	0 0%	6 35%	10 59%	0 0%	1 6%
	全体	1,783人	567 32%	970 54%	172 10%	74 4%	557 31%	1,007 56%	160 9%	59 3%

	人数	二酸化炭素などによる地球温暖化				不法投棄や廃家電などのごみ処理やリサイクル				
		が非常に 関心 がある	関 心 が あ る	関 心 が な い	無 回 答	が非常に 関心 がある	関 心 が あ る	関 心 が な い	無 回 答	
年代	20歳未満	491人	134 27%	316 64%	40 8%	1 0%	110 22%	291 59%	89 18%	1 0%
	20代	217人	52 24%	145 67%	19 9%	1 0%	38 18%	140 65%	38 18%	1 0%
	30代	168人	26 15%	123 73%	16 10%	3 2%	27 16%	109 65%	29 17%	3 2%
	40代	259人	66 25%	167 64%	22 8%	4 2%	54 21%	183 71%	17 7%	5 2%
	50代	249人	65 26%	168 67%	13 5%	3 1%	62 25%	165 66%	17 7%	5 2%
	60代	218人	74 34%	128 59%	7 3%	9 4%	69 32%	126 58%	9 4%	14 6%
	70歳以上	163人	46 28%	97 60%	3 2%	17 10%	54 33%	82 50%	6 4%	21 13%
	無回答	18人	3 17%	11 61%	1 6%	3 17%	5 28%	10 56%	0 0%	3 17%
男女別	男性	673人	199 30%	416 62%	48 7%	10 1%	158 23%	411 61%	90 13%	14 2%
	女性	1,093人	263 24%	728 67%	72 7%	30 3%	256 23%	684 63%	114 10%	39 4%
	無回答	17人	4 24%	11 65%	1 6%	1 6%	5 29%	11 65%	1 6%	0 0%
	全体	1,783人	466 26%	1,155 65%	121 7%	41 2%	419 23%	1,106 62%	205 11%	53 3%

「自動車などの排気ガスによる大気汚染」「家庭や工場からの排水による水質汚染」について「非常に興味がある」は70歳以上が高い。

「石油などの大量消費による資源の枯渇」について「非常に興味がある」は男性が高い。

	人数	石油など大量消費による資源の枯渇				都市化や観光開発による自然景観や野生動植物への影響				
		が非常に興味	関心がある	関心がない	無回答	が非常に興味	関心がある	関心がない	無回答	
年代	20歳未満	491人	134 27%	276 56%	79 16%	2 0%	139 28%	265 54%	82 17%	5 1%
	20代	217人	59 27%	126 58%	31 14%	1 0%	53 24%	135 62%	26 12%	3 1%
	30代	168人	31 18%	112 67%	23 14%	2 1%	25 15%	105 62%	33 20%	5 3%
	40代	259人	55 21%	170 66%	29 11%	5 2%	41 16%	175 68%	34 13%	9 3%
	50代	249人	55 22%	160 64%	28 11%	6 2%	43 17%	155 62%	46 18%	5 2%
	60代	218人	39 18%	149 68%	16 7%	14 6%	45 21%	131 60%	25 11%	17 8%
	70歳以上	163人	39 24%	92 56%	9 6%	23 14%	33 20%	90 55%	15 9%	25 15%
	無回答	18人	2 11%	12 67%	0 0%	4 22%	6 33%	9 50%	0 0%	3 17%
男女別	男性	673人	200 30%	387 58%	73 11%	13 2%	143 21%	397 59%	115 17%	18 3%
	女性	1,093人	212 19%	696 64%	142 13%	43 4%	237 22%	658 60%	145 13%	53 5%
	無回答	17人	2 12%	14 82%	0 0%	1 6%	5 29%	10 59%	1 6%	1 6%
全体	1,783人	414 23%	1,097 62%	215 12%	57 3%	385 22%	1,065 60%	261 15%	72 4%	

	人数	自動車などの排気ガスによる大気汚染				家庭や工場からの排水による水質汚濁				
		が非常に興味	関心がある	関心がない	無回答	が非常に興味	関心がある	関心がない	無回答	
年代	20歳未満	491人	120 24%	306 62%	63 13%	2 0%	105 21%	310 63%	73 15%	3 1%
	20代	217人	41 19%	146 67%	28 13%	2 1%	37 17%	146 67%	33 15%	1 0%
	30代	168人	26 15%	120 71%	19 11%	3 2%	23 14%	120 71%	21 12%	4 2%
	40代	259人	57 22%	166 64%	31 12%	5 2%	40 15%	179 69%	32 12%	8 3%
	50代	249人	43 17%	175 70%	26 10%	5 2%	43 17%	166 67%	34 14%	6 2%
	60代	218人	46 21%	143 66%	13 6%	16 7%	40 18%	145 67%	14 6%	19 9%
	70歳以上	163人	44 27%	91 56%	5 3%	23 14%	45 28%	86 53%	10 6%	22 13%
	無回答	18人	3 17%	10 56%	2 11%	3 17%	1 6%	13 72%	1 6%	3 17%
男女別	男性	673人	154 23%	423 63%	79 12%	17 3%	123 18%	435 65%	97 14%	18 3%
	女性	1,093人	222 20%	724 66%	105 10%	42 4%	210 19%	716 66%	120 11%	47 4%
	無回答	17人	4 24%	10 59%	3 18%	0 0%	1 6%	14 82%	1 6%	1 6%
全体	1,783人	380 21%	1,157 65%	187 10%	59 3%	334 19%	1,165 65%	218 12%	66 4%	

「フロンガスによるオゾン層の破壊」は60代以上と20歳未満が高い。「化学物質による環境汚染」について「非常に興味がある」は60代以上が高い。「関心がない」は20代以下が高い。「地下水の汲み上げによる地盤沈下」について「非常に興味がある」は70歳以上が高い。「関心がない」は30代以下が高い。

	人数	フロンガスによるオゾン層の破壊				ダイオキシン類などの化学物質による環境汚染				
		が非常に興味がある	関心がある	関心がない	無回答	が非常に興味がある	関心がある	関心がない	無回答	
年代	20歳未満	491人	101 21%	308 63%	80 16%	2 0%	77 16%	300 61%	111 23%	3 1%
	20代	217人	33 15%	137 63%	46 21%	1 0%	23 11%	142 65%	51 24%	1 0%
	30代	168人	17 10%	114 68%	34 20%	3 2%	23 14%	110 65%	32 19%	3 2%
	40代	259人	42 16%	168 65%	42 16%	7 3%	47 18%	166 64%	41 16%	5 2%
	50代	249人	46 18%	167 67%	32 13%	4 2%	47 19%	170 68%	30 12%	2 1%
	60代	218人	45 21%	146 67%	13 6%	14 6%	57 26%	129 59%	19 9%	13 6%
	70歳以上	163人	35 21%	88 54%	14 9%	26 16%	43 26%	86 53%	9 6%	25 15%
	無回答	18人	4 22%	10 56%	1 6%	3 17%	3 17%	12 67%	1 6%	2 11%
男女別	男性	673人	131 19%	436 65%	91 14%	15 2%	120 18%	428 64%	109 16%	16 2%
	女性	1,093人	188 17%	693 63%	169 15%	43 4%	198 18%	675 62%	183 17%	37 3%
	無回答	17人	4 24%	9 53%	2 12%	2 12%	2 12%	12 71%	2 12%	1 6%
全体	1,783人	323 18%	1,138 64%	262 15%	60 3%	320 18%	1,115 63%	294 16%	54 3%	

	人数	地下水の汲み上げによる地盤沈下				
		が非常に興味がある	関心がある	関心がない	無回答	
年代	20歳未満	491人	44 9%	260 53%	185 38%	2 0%
	20代	217人	15 7%	125 58%	76 35%	1 0%
	30代	168人	11 7%	97 58%	56 33%	4 2%
	40代	259人	25 10%	158 61%	71 27%	5 2%
	50代	249人	30 12%	150 60%	65 26%	4 2%
	60代	218人	36 17%	140 64%	29 13%	13 6%
	70歳以上	163人	35 21%	82 50%	21 13%	25 15%
	無回答	18人	0 0%	11 61%	5 28%	2 11%
男女別	男性	673人	77 11%	376 56%	206 31%	14 2%
	女性	1,093人	118 11%	636 58%	298 27%	41 4%
	無回答	17人	1 6%	11 65%	4 24%	1 6%
全体	1,783人	196 11%	1,023 57%	508 28%	56 3%	

Q3. あなたの周辺の環境で、5～6年前と比べて変化していると感じることがあれば、選んでください。(いくつでも)

(1)全体では

「気候の変動」は88%と高く、次いで「野生動物の市街地への出現」は48%である。

(2)年代別では

「気候の変動」は30代から60代が高い。「野生動物の市街地への出現」は50代以上が高い。

年代	人数	項目					
		気候の変動(暑い日が多くなったり、雨が多くなったり、台風など)	野生動物の市街地への出現(野山、里山の増加)	魚介類・海産物の捕獲量の減少	森林・植物の減少(少動植物の生態系の変化)	鳥類・昆虫類の減少	その他
20歳未満	491人	400 81%	130 26%	116 24%	125 25%	90 18%	8 2%
20代	217人	185 85%	84 39%	61 28%	48 22%	37 17%	8 4%
30代	168人	155 92%	83 49%	39 23%	32 19%	31 18%	3 2%
40代	259人	239 92%	138 53%	83 32%	67 26%	54 21%	7 3%
50代	249人	231 93%	157 63%	93 37%	76 31%	45 18%	9 4%
60代	218人	205 94%	144 66%	90 41%	93 43%	64 29%	6 3%
70歳以上	163人	139 85%	108 66%	69 42%	58 36%	63 39%	3 2%
無回答	18人	11 61%	6 33%	2 11%	5 28%	4 22%	0 0%
全体	1,783人	1,565 88%	850 48%	553 31%	504 28%	388 22%	44 2%

2. 日常の取組み

Q4. 日常生活において、環境にやさしい生活をするために、あなたが実行していることを選んでください。(いくつでも)

(1) 全体では

「ごみは自治体のルールに従い分別して出す」は75%、「電気・ガス・水の節約に心がける」は73%、「詰め替え商品を買う」は61%と続く。一方、「エコマーク商品の利用」11%、「減農薬野菜の購入」11%、「野菜や果物の皮など捨てずに調理」は8%と低い。

(2)年代別、男女別では

「ごみは自治体のルールに従い分別して出す」は70歳以上で高い。「電気・ガス・水の節約に心がける」は60代以上が高い。「詰め替え商品を買う」は30代が高い。一方、「エコマーク商品の利用」「減農薬野菜の購入」「野菜や果物の皮など捨てずに調理」は60代以上が比較的高い。

男女別では、「詰め替え商品を買う」「商品の過剰な包装やレジ袋を断る」「自宅で野菜・植物を育てる」「地産地消に心がける」などの行動では女性が高い。「エコドライブ」「公共交通機関の利用」「エコカーに乗っている」などでは若干男性が高い。

項目	人数	年代							男女別	
		20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	男性	女性
ごみは、自治体のルールに従い、分別して出す	1,340人	303 62%	134 62%	127 76%	214 83%	210 84%	194 89%	149 91%	473 70%	857 78%
電気・ガス・水の節約に心がける	1,310人	326 66%	148 68%	120 71%	204 79%	193 78%	180 83%	130 80%	473 70%	826 76%
詰め替え商品を買う	1,081人	251 51%	128 59%	128 76%	175 68%	165 66%	138 63%	88 54%	310 46%	763 70%
買い物では、商品の過剰な包装やレジ袋を断る	1,021人	263 54%	123 57%	110 65%	155 60%	155 62%	123 56%	87 53%	312 46%	703 64%
食べ残さない	994人	294 60%	134 62%	90 54%	127 49%	126 51%	123 56%	91 56%	380 56%	606 55%
買いすぎない	789人	205 42%	79 36%	82 49%	117 45%	100 40%	116 53%	83 51%	261 39%	522 48%
住宅設備や家電製品は省エネ性の高いものを使用する	628人	64 13%	42 19%	80 48%	131 51%	133 53%	107 49%	66 40%	233 35%	386 35%
車を運転するときは、エコドライブをする	595人	88 18%	59 27%	55 33%	108 42%	125 50%	104 48%	52 32%	234 35%	357 33%
自宅で野菜・植物を育てる	482人	83 17%	30 14%	38 23%	58 22%	71 29%	115 53%	84 52%	122 18%	342 31%
地産地消に心がけ、適正な価格で購入する	466人	60 12%	33 15%	42 25%	73 28%	89 36%	89 41%	77 47%	125 19%	356 33%
生ごみの水切り・乾燥化・肥料化などごみの減量化に努めている	421人	82 17%	34 16%	21 12%	51 20%	63 25%	86 39%	80 49%	122 18%	342 31%
各自がばらばらに生活しないで居間などに集まって一家団楽の生活スタイルを取り入れる	319人	66 13%	31 14%	43 26%	63 24%	38 15%	45 21%	29 18%	83 12%	232 21%
公共交通機関等を利用し、車の使用を控える	289人	99 20%	36 17%	10 6%	32 12%	50 20%	29 13%	31 19%	132 20%	157 14%
エコカー（ハイブリッド車、電気自動車等）に乗っている	237人	34 7%	21 10%	22 13%	42 16%	50 20%	47 22%	19 12%	107 16%	127 12%
再生素材（エコマーク商品等）で作られた商品を利用する	194人	40 8%	15 7%	9 5%	21 8%	30 12%	43 20%	33 20%	55 8%	136 12%
減農薬の野菜を購入している	189人	14 3%	14 6%	18 11%	18 7%	35 14%	50 23%	37 23%	45 7%	143 13%
野菜や果物の皮などを捨てずに調理している	139人	37 8%	11 5%	8 5%	15 6%	18 7%	26 12%	23 14%	29 4%	108 10%
その他	12人	0 0%	1 0%	1 1%	2 1%	0 0%	2 1%	6 4%	2 0%	10 1%
無回答	11人	2 0%	2 1%	2 1%	2 1%	0 0%	2 1%	1 1%	6 1%	5 0%
全体	1,783人	491 28%	217 12%	168 9%	259 15%	249 14%	218 12%	163 9%	673 38%	1,093 61%

Q5. 家庭で取り組める省エネ対策について、効果的と思うものを選んでください。(いくつでも)

(1)全体では

「使っていない部屋の照明は消すなど環境配慮の行動を取る」は84%、「エアコンの適正温度の設定、自然風の取り入れ」は66%である。

(2)年代別では

「使っていない部屋の照明は消すなど環境配慮の行動を取る」は50代、60代が高い。「エアコンの適正温度の設定、自然風の取り入れ」は60代が高い。

年代	人数	項目						
		使っていない部屋の照明を消すなど環境配慮の行動をとる	エアコンの適正温度の設定、自然風の取り入れ	家族の行動変容を促す	住宅設備や家電製品の交換	再利用可能な素材の選択	公共交通機関の利用	その他
20歳未満	491人	376 77%	295 60%	189 38%	117 24%	119 24%	131 27%	4 1%
20代	217人	174 80%	122 56%	86 40%	50 23%	48 22%	47 22%	1 0%
30代	168人	144 86%	120 71%	65 39%	74 44%	32 19%	27 16%	2 1%
40代	259人	228 88%	176 68%	119 46%	125 48%	51 20%	49 19%	2 1%
50代	249人	226 91%	160 64%	79 32%	122 49%	62 25%	62 25%	4 2%
60代	218人	201 92%	176 81%	62 28%	83 38%	72 33%	42 19%	5 2%
70歳以上	163人	141 87%	119 73%	47 29%	50 31%	35 21%	31 19%	3 2%
無回答	18人	11 61%	8 44%	6 33%	5 28%	5 28%	4 22%	0 0%
全体	1,783人	1,501 84%	1,176 66%	653 37%	626 35%	424 24%	393 22%	21 1%

Q6. あなたは、どのような環境保全活動に参加していますか。(いくつでも)

(1)全体では

参加している人のうち、「公園などの清掃活動」は37%、「花や緑を育てる運動」は15%、「川、海をきれいにする活動」は14%である。一方、「参加していない」は38%である。

(2)年代別では

「公園などの清掃活動」は50代、40代が高い。「花や緑を育てる運動」は60代以上が高い。「川、海をきれいにする活動」は50代と70歳以上が高い。一方、「参加していない」は30代以下が高い。

年代	人数	項目										
		公園などの清掃活動	花や緑を育てる運動	川・海をきれいにする活動	環境に関する学習	森づくりの活動	環境保全に関する募金活動	ホタルなどの生物を呼び戻す活動	歴史的な遺跡や建築物を保全する活動	その他	参加していない	無回答
20歳未満	491人	89 18%	32 7%	45 9%	41 8%	23 5%	17 3%	13 3%	4 1%	3 1%	274 56%	41 8%
20代	217人	59 27%	20 9%	19 9%	13 6%	11 5%	10 5%	8 4%	7 3%	5 2%	106 49%	13 6%
30代	168人	60 36%	13 8%	13 8%	5 3%	9 5%	10 6%	3 2%	1 1%	1 1%	80 48%	9 5%
40代	259人	137 53%	25 10%	37 14%	18 7%	25 10%	8 3%	6 2%	1 0%	2 1%	73 28%	6 2%
50代	249人	135 54%	41 16%	58 23%	35 14%	42 17%	7 3%	7 3%	4 2%	3 1%	63 25%	6 2%
60代	218人	99 45%	76 35%	33 15%	45 21%	15 7%	10 5%	4 2%	12 6%	4 2%	47 22%	21 10%
70歳以上	163人	84 52%	55 34%	38 23%	35 21%	4 2%	5 3%	6 4%	6 4%	0 0%	27 17%	16 10%
無回答	18人	5 28%	1 6%	1 6%	3 17%	3 17%	1 6%	1 6%	1 6%	0 0%	6 33%	2 11%
全体	1,783人	668 37%	263 15%	244 14%	195 11%	132 7%	68 4%	48 3%	36 2%	18 1%	676 38%	114 6%

Q7. Q6の質問で、環境保全活動に参加していると答えられた方にお聞きします。あなたが参加している環境保全活動の形態を選んでください。(いくつでも)

(1)全体では

「自治会などの集まりでの活動」は64%と最も高く、「所属企業による活動」は25%、「有志での活動」は12%、「環境団体などによる活動」は11%である。

(2)年代別では

「自治会などの集まりでの活動」は20代以外の各年代が高い。「所属企業による活動」は20代から50代が高い。「有志での活動」は70歳以上が高く、次いで20歳未満、60代が高い。「募金活動」は20代がやや高い。

年代	人数	項目					
		自治会などの集まりでの活動	所属企業による活動	少人数の有志グループでの活動	環境団体などによる活動	環境保全に関する募金活動	その他
20歳未満	176人	108 61%	12 7%	30 17%	23 13%	9 5%	9 5%
20代	98人	46 47%	31 32%	9 9%	13 13%	10 10%	4 4%
30代	79人	51 65%	25 32%	1 1%	5 6%	6 8%	3 4%
40代	180人	124 69%	68 38%	12 7%	14 8%	3 2%	1 1%
50代	180人	109 61%	83 46%	11 6%	23 13%	5 3%	4 2%
60代	150人	116 77%	27 18%	23 15%	22 15%	5 3%	7 5%
70歳以上	120人	82 68%	4 3%	31 26%	6 5%	4 3%	3 2%
無回答	10人	4 40%	1 10%	1 10%	2 20%	1 10%	0 0%
全体	993人	640 64%	251 25%	118 12%	108 11%	43 4%	31 3%

Q8. Q6の質問で、環境保全活動に参加していると答えられた方にお聞きします。あなたがその活動に携わって、良かったと思うことはなんですか。(いくつでも)

(1)全体では

「身近な環境がきれいになってうれしかった」は62%、「仲間との交流が深まった」は30%、「自然の豊かさを感じることができた」は25%である。

(2)年代別では

「身近な環境がきれいになってうれしかった」は40代、50代、60代で特に高く、「仲間との交流が深まった」は60代、70歳以上が高い。「自然の豊かさを感じることができた」は20代以下と50代が高い。

年代	人数	項目					
		身近な環境がきれいになった	仲間との交流が深まった	自然の豊かさを感じることができた	地域・環境意識が広がった	子育て・地域の環境意識	その他
20歳未満	176人	86 49%	56 32%	59 34%	14 8%	14 8%	3 2%
20代	98人	59 60%	26 27%	29 30%	10 10%	8 8%	0 0%
30代	79人	49 62%	14 18%	10 13%	19 24%	4 5%	2 3%
40代	180人	120 67%	41 23%	35 19%	29 16%	6 3%	1 1%
50代	180人	126 70%	42 23%	54 30%	18 10%	6 3%	2 1%
60代	150人	104 69%	66 44%	36 24%	22 15%	8 5%	2 1%
70歳以上	120人	71 59%	52 43%	25 21%	8 7%	8 7%	2 2%
無回答	10人	5 50%	3 30%	1 10%	0 0%	1 10%	0 0%
全体	993人	620 62%	300 30%	249 25%	120 12%	55 6%	12 1%

(3) 男女別では

「身近な環境がきれいになってうれしかった」は男女とも高い。「自然の豊かさを感じる事ができた」は男性が高く、「子供の環境教育を通して環境への意識が広がった」は女性が高い。

男女別	人数	項目					
		かいつにたなつてうがれきしれ	ま間活つと動たのを交通して、深、仲	じ自然・この川と豊・海などでさをどた感の	識地を子れどメしがダか戻力つっ・ホきタルうな	識地を子れどメしがダか戻力つっ・ホきタルうな	識地を子れどメしがダか戻力つっ・ホきタルうな
男性	417人	267 64%	124 30%	137 33%	35 8%	24 6%	6 1%
女性	565人	346 61%	174 31%	110 19%	84 15%	30 5%	6 1%
無回答	11人	7 64%	2 18%	2 18%	1 9%	1 9%	0 0%
全体	993人	620 62%	300 30%	249 25%	120 12%	55 6%	12 1%

(4) 職業別では

すべての職業で「身近な環境がきれいになってうれしかった」が高い。

家事従事者や無職では「仲間との交流が深まった」と答える人が多く、「自然の豊かさを感じることが出来た」は学生が比較的多い。

職業	人数	項目					
		かいつにたなつてうがれきしれ	ま間活つと動たのを交通して、深、仲	じ自然・この川と豊・海などでさをどた感の	識地を子れどメしがダか戻力つっ・ホきタルうな	識地を子れどメしがダか戻力つっ・ホきタルうな	識地を子れどメしがダか戻力つっ・ホきタルうな
給与生活者	502人	352 70%	117 23%	114 23%	61 12%	19 4%	7 1%
自営・自由業	27人	17 63%	7 26%	4 15%	4 15%	2 7%	0 0%
家事従事者	87人	57 66%	40 46%	17 20%	12 14%	1 1%	0 0%
学生	216人	104 48%	68 31%	77 36%	19 9%	14 6%	3 1%
無職	112人	66 59%	53 47%	22 20%	14 12%	9 8%	2 2%
その他	13人	9 69%	3 23%	5 38%	2 15%	3 23%	0 0%
無回答	36人	15 42%	12 33%	10 28%	8 22%	7 19%	0 0%
全体	993人	620 62%	300 30%	249 25%	120 12%	55 6%	12 1%

3. 環境保全に対する取組み

Q9. 先進7か国富山環境大臣会合では、資源効率性・3Rの推進の具体的な対策として、食品ロスの削減に取り組むことが合意されましたが、食品ロスを削減するため、買い物の際に実践していることを選んでください。(いくつでも)

(1) 全体では

「冷蔵庫を確認し、必要なもののみ購入」は60%、「少量パックなど使いきることができる商品を買う」は41%である。

(2) 年代別では

「冷蔵庫を確認し、必要なもののみ購入」「少量パックなど使いきることができる商品を買う」は30代以上が高い。「消費・賞味期限の近い食品から選ぶ」は20代以下が高い。一方、30代以上では低い。

年代	人数	項目				
		冷蔵庫を確認し、必要なもののみ購入	少量パックなど使いきることができる商品を買う	購入前に考え、購入する計画を立てる	近所・お惣菜・賞味期限の近い食品から選ぶ	その他
20歳未満	491人	250 51%	175 36%	163 33%	195 40%	10 2%
20代	217人	126 58%	67 31%	81 37%	88 41%	0 0%
30代	168人	109 65%	76 45%	73 43%	48 29%	2 1%
40代	259人	163 63%	110 42%	80 31%	79 31%	5 2%
50代	249人	155 62%	110 44%	74 30%	74 30%	3 1%
60代	218人	144 66%	109 50%	74 34%	68 31%	2 1%
70歳以上	163人	103 63%	78 48%	59 36%	51 31%	3 2%
無回答	18人	11 61%	5 28%	7 39%	5 28%	0 0%
全体	1,783人	1,061 60%	730 41%	611 34%	608 34%	25 1%

Q10. 食品ロスを削減するため、調理・食事の際に実践していることを選んでください。(いくつでも)

(1)全体では

「消費・賞味期限の近いものから調理する」は68%、「食べきれる量を注文する」「食べきれる分だけ調理する」は53%と高い。一方、「残った料理をリメイクする」は24%、「野菜の皮などを利用するエコクッキング」は13%と低い。

(2)年代別では

「消費・賞味期限の近いものから調理する」は30代と60代が高い。「食べきれる量を注文する」は20代が高い。「食べきれる分だけ調理する」は60代が高く、「残った料理をリメイクする」は60代以上が高い。

年代	人数	項目					
		消費・賞味期限の近いものから調理する	食べきれる量を注文する	食べきれる分だけ調理する	残った料理をリメイクする	エコクッキング	その他
20歳未満	491人	333 68%	253 52%	238 48%	91 19%	54 11%	6 1%
20代	217人	139 64%	128 59%	112 52%	38 18%	27 12%	1 0%
30代	168人	127 76%	92 55%	93 55%	40 24%	21 12%	1 1%
40代	259人	175 68%	143 55%	135 52%	60 23%	30 12%	2 1%
50代	249人	161 65%	132 53%	141 57%	60 24%	26 10%	3 1%
60代	218人	162 74%	107 49%	133 61%	76 35%	44 20%	2 1%
70歳以上	163人	111 68%	86 53%	90 55%	57 35%	33 20%	2 1%
無回答	18人	10 56%	8 44%	6 33%	1 6%	2 11%	0 0%
全体	1,783人	1,218 68%	949 53%	948 53%	423 24%	237 13%	17 1%

Q11. 家庭から出るごみを削減するのに効果的と思うものを選んでください。
(2つまで)

(1)全体では

「買いすぎない」は83%と高く、「不用品で使えるものはリサイクルショップなどに売る」は36%、「家電などは修理して長く使う」は23%である。一方、「食品廃棄物の肥料化(コンポスト化)を行う」は14%、「食べ残しなどは乾燥させてからごみ出しをする」は6%と低い。

(2)年代別では

いずれの年代においても「買いすぎない」が高い。50代までの世代では「リサイクルショップやフリーマーケットを利用する」人が多い。一方、「食品廃棄物の肥料化を行う」は60代以上の世代が高い。

年代	人数	項目					
		買いすぎない	リサイクルショップなどに売ったりフリーマーケットに出品したりする	故障した家電などは、修理してできるだけ長く使う	食品廃棄物の肥料化(コンポスト)を行う	草や枝、食べ残しなどは、乾燥させてからごみ出しをする	その他
20歳未満	491人	410 84%	194 40%	103 21%	39 8%	12 2%	2 0%
20代	217人	169 78%	93 43%	43 20%	24 11%	8 4%	1 0%
30代	168人	142 85%	79 47%	29 17%	14 8%	7 4%	1 1%
40代	259人	229 88%	101 39%	57 22%	24 9%	11 4%	0 0%
50代	249人	212 85%	92 37%	61 24%	38 15%	15 6%	2 1%
60代	218人	183 84%	53 24%	55 25%	61 28%	24 11%	3 1%
70歳以上	163人	128 79%	23 14%	60 37%	46 28%	31 19%	8 5%
無回答	18人	10 56%	3 17%	8 44%	3 17%	2 11%	0 0%
全体	1,783人	1,483 83%	638 36%	416 23%	249 14%	110 6%	17 1%

(3) 男女別では

「広がり期待できる地道な活動を全県的に展開する」「必要な量だけ購入できる仕組みを増やす」は女性が高い。「子どもから大人まで環境教育を促進する」は男女の差がない。「省資源、省エネルギーの新技术を導入し、循環型の社会システムに変える」「環境保全に寄与する企業を応援する仕組みを作り、活動を促進する」は男性が高い。

男女別	人数	項目							
		民県的展参加型）	「レジ袋削減のよう」	境子教育を促進する	をだ量り増し購入できる必要量	シを資導源統今までの省エネ活動	作業環環境保全に寄与する企	作よも森うがづく環境税などの、誰	う全消機活費者と企業が環境保
男性	673人	334 50%	254 38%	219 33%	237 35%	208 31%	112 17%	102 15%	13 2%
女性	1,093人	681 62%	413 38%	439 40%	319 29%	202 18%	173 16%	132 12%	20 2%
無回答	17人	9 53%	2 12%	5 29%	4 24%	1 6%	0 0%	2 12%	0 0%
全体	1,783人	1,024 57%	669 38%	663 37%	560 31%	411 23%	285 16%	236 13%	33 2%

(4) 職業別では

「レジ袋削減のよう『広がり期待できる地道な活動』を全県的に展開する」は、すべての職業で高い。家事従事者、学生では「子供から大人までの環境教育」が、給与生活者、自営自由業無職では「必要な量だけ購入できる仕組みを増やす」が次に続く。

職業	人数	項目							
		民県的展参加型）	「レジ袋削減のよう」	境子教育を促進する	をだ量り増し購入できる必要量	シを資導源統今までの省エネ活動	作業環環境保全に寄与する企	作よも森うがづく環境税などの、誰	う全消機活費者と企業が環境保
給与生活者	773人	465 60%	287 37%	307 40%	273 35%	220 28%	111 14%	86 11%	15 2%
自営・自由業	48人	30 62%	15 31%	19 40%	10 21%	11 23%	6 12%	6 12%	0 0%
家事従事者	140人	95 68%	68 49%	51 36%	43 31%	19 14%	18 13%	26 19%	4 3%
学生	599人	289 48%	213 36%	191 32%	160 27%	111 19%	115 19%	80 13%	8 1%
無職	150人	101 67%	60 40%	67 45%	47 31%	29 19%	26 17%	28 19%	6 4%
その他	26人	19 73%	10 38%	16 62%	11 42%	7 27%	5 19%	1 4%	0 0%
無回答	47人	25 53%	16 34%	12 26%	16 34%	14 30%	4 9%	9 19%	0 0%
全体	1,783人	1,024 57%	669 38%	663 37%	560 31%	411 23%	285 16%	236 13%	33 2%

IV まとめ

1 調査結果のまとめ

(1) 社会問題、環境問題への関心

- ・環境問題を含めた社会問題で特に関心が高いのは「地震・豪雨などの災害」、次に「地域の生活環境」「地球規模の環境」と続き、環境問題が、経済や地域医療・福祉等に関する問題より関心が高い。
- ・環境問題の中では、9割を超える人が「二酸化炭素などによる地球の温暖化」に関心があり、「非常に関心がある」では「太陽光・水力などの再生可能エネルギーの活用」「放射性物質などの越境汚染問題」が高い。一方、水の王国富山のゆえか、「地下水の汲み上げによる地盤沈下」は関心が低い。
- ・環境の変化を5～6年前と比較すると、「気候の変動」を感じている人が多い

(2) 日常の取組み

- ・7割強の人が、「ごみの分別」「電気・ガス・水の節約」を実践している。一方、「エコマーク商品の利用」や「野菜や果物の皮を調理している」人は、1割強と少ない。
- ・家庭で取り組む効果的な省エネ対策は、「使っていない部屋の照明はこまめに消す」や「エアコンの適正温度の設定」が多い。
- ・参加している環境保全活動では、「自治会や町内会などの集まり」で「公園・道路などの清掃活動」をしている人が多い。なんらかの環境保全活動に参加している人は6割弱であり、一方、「環境保全活動に参加していない」は4割弱である。
- ・環境保全活動に携わった感想では、「身近な環境がきれいになってうれしかった」「活動を通して仲間との交流が深まった」が多い。

(3) 環境保全に対する取組み

- ・食品ロス削減の取組みのうち、買い物の際に実践していることは、「冷蔵庫内を確認し必要なもののみ購入する」「少量パックなど使い切ることができる商品を購入する」が多い。
- ・調理、食事の際に実践していることは、「消費・賞味期限の近いものから調理する」「外食時は食べきれぬ量を注文する」「食べきれぬ分だけ調理する」が多い。一方、「残った料理をリメイクする」「野菜の皮などを利用するエコクッキング」は低い。
- ・家庭から出るごみを削減するのに効果的なことは、「買いすぎない」が8割強と多く、次いで「使えるものはリサイクルショップなどに売る」「故障した家電などは修理して使う」が多い。
- ・環境保全の取組みを推進する上で行政や企業に望むことは、「レジ袋削減のような広がり期待できる地道な活動を全県的に展開する」が6割弱と多く、次いで、「各世代へ環境教育を促進する」「量り売りなど必要な量だけ購入できる仕組みを増やす」が多い。

2 今後の取組み

今後、さらなる地球温暖化対策をとらなければ、富山県でも21世紀末には平均気温が5℃程度上昇する可能性があるという厳しい現実を踏まえ、県民一人ひとりが環境保全の必要性を認識し、消費者、事業者、関係行政機関が、それぞれ果たすべき役割を実践していくこと、さらに、それぞれの取組み主体の活動が相互に連携して実効性のあるものにしていく仕組みを、行政の主導の元に、県民総参加の運動として展開していくことが大切である。このため、今後の取組みとして、次のように提言する。

(1) 消費者自身の取組みとして、次のような行動に努める。

- ① マイバッグ持参、節水・節電・食品廃棄物の削減、地産地消の推進、エコドライブの推進など、これまで取り組んできたエコライフ活動を継続拡大していくとともに、廃棄物が増えないような日常行動に努めていく。また、こうした日常の行動について、家族間での情報を共有するとともに、県内各地で広がっていくよう、働きかけていく。
- ② まだ食べられるのに捨てられている食べ物、いわゆる「食品ロス」の削減については、事前の冷蔵庫内のチェックなどにより買いすぎない、作りすぎない、残った料理のリメイクやエコクッキング、外食時には食べきれる量を注文することなどに努める。
また、家庭から出るごみを減らすために、台所ごみの水切りやコンポストの活用にも努める。
- ③ さらに、生産者、外食・小売産業、製造業者等との意見交換などにより、相互の交流を図り、事業者等が取り組む環境保全の取組みを促進し、支援していく。

(2) 県民総参加による取組みを推進していくため、行政、事業者に対して、次のように要望する。

- ① 行政に対しては、県民に向けて、環境保全の必要性を明確にかつ分かりやすく情報発信し、各世代の環境教育を充実させ、県民一人ひとりが日常生活で取り組みやすい具体的な行動を提唱していくこと、また、将来を見据えた環境保全のための技術開発や研究にも力を入れていくことを要望する。
さらに、「食品ロス」の削減などの環境保全に取り組む事業者に対しては、例えば、とやまエコストア制度の拡充など支援体制を充実していくことを要望する。
- ② 事業者に対しては、長期的な視点に立って、環境にやさしい取組みを拡大し、また、「食品ロス」の削減のため、商慣習の見直しなど、県民から信頼される仕組みを検討するよう要望する。

V 回答者の意見

1 設問毎の「その他」の意見

Q1 環境問題を含めた社会問題について、特に関心を持っていること

環境問題

- ・ 害獣被害の多発 (60代 女性)
- ・ 富山駅北側、城址公園等の鳥の糞 (50代 男性)
- ・ 近所の野良猫や犬の糞 (70歳以上 女性)
- ・ マイクロプラスチック (40代 男性)
- ・ 川の生態系 (20代 男性)
- ・ リサイクルの問題点 (20代 男性)

他

- ・ 介護 (60代 男性)
- ・ 医療の救急体制 (50代 女性)
- ・ 障害者の社会保障、就労支援等 (40代 男性)
- ・ 生涯教育や文化活動に対する地方公共団体の支援 (50代 女性)

Q2 環境問題についてどの程度の関心があるか。(掲載項目以外に)

食品

- ・ 食品添加物を含む食品汚染の人への影響 (60代 女性 他1名)
- ・ 食品ロスや生活ゴミの諸問題 (70歳以上 女性 他1名)

自然

- ・ 自然との共存 (50代 男性)
- ・ 自然災害 (20歳未満 男性)
- ・ 野生動物、ペットとの共生 (50代 女性 他1名)
- ・ 感染症 (60代 男性)

Q3 周辺の環境で、5～6年前と比べて変化していると感じること。

自然

- ・ 海水温の上昇 (30代 男性 他1名)
- ・ 海岸の砂浜の減少 (20歳未 女性 他2名)
- ・ 星が見えなくなった (20代 女性)
- ・ 水質の変化 (20歳未満 女性)
- ・ 長い目でみてみると自然は再生される力を持っていると思う (60代 女性)
- ・ 5～6年前では、差は感じにくい (60代 男性)

土地、家屋

- ・ 田んぼの宅地化等による減少 (30代 男性 他2名)
- ・ 耕作放棄田がふえ、雑草など伸び放題の土地が多くなった (50代 女性 他1名)
- ・ 廃屋の増加 (50代 女性)

動物

- ・ すずめが少ない (50代 女性 他1名)
- ・ カラスが多くなった (40代 男性)
- ・ 今までにない渡り鳥の増加 (60代 女性)
- ・ 蚊や蜂の増加 (40代 女性 他1名)
- ・ 昆虫類の種類が変わった (50代 男性)
- ・ 野生動物の里への出現 (70代以上 女性)

Q4 日常生活において、環境にやさしい生活をするために、実行していること。

食

- ・ 家族が育てた野菜を食している (40代 女性1名)
- ・ 無農薬野菜を作っている (70歳以上 女性 他1名)
- ・ タンブラーの使用 (20代 女性)

他

- ・ 石けん、化学物質をつかわない (30代 女性)
- ・ 重曹や酢を使用して掃除 (40代 女性)
- ・ 戸外空気の取入れ、窓やベランダを開ける (60代 男性)

Q5 家庭で取り組める省エネ対策について、効果的と思うこと。

住宅

- ・ グリーンカーテン、すだれの利用 (50代 女性 他2名)
- ・ 風呂のお湯等 水の再利用 (60代 男性 他1名)

他

- ・ 公共の場を利用し、家庭の省エネ対策を促進する (20歳未満 女性)
- ・ 環境家計簿を毎月記入し、省エネ度を確認している (50代 男性)

Q6 どのような環境保全活動に参加しているか。

自己で

- ・ 農薬、化学肥料を一切使わない農法 (60代 女性)

団体で

- ・ 富山県地球温暖化防止活動推進員で活動 (50代 男性)

- ・ライチョウ保護活動ボランティア (20代 女性)
- ・水土里保全研究会、ひまわりサークル (20歳未満 女性)

Q6 環境保全活動に参加していない理由

- ・時間がない (20代 女性 他 88名)
- ・参加する機会がない (30代 女性 他 57名)
- ・近くに活動する場が無い (60代 女性 他 10名)
- ・活動情報(団体内容や場所)がよくわからない (30代 女性 他 50名)
- ・関心が無い (20歳未満 男性 他 17名)
- ・面倒だから (20歳未満 男性 他 6名)
- ・体の都合により参加できない (70歳以上 女性 他 5名)
- ・子供が小さいから (30代 女性 他 4名)
- ・一人で参加する勇気がない (30代 女性 他 1名)
- ・保全活動をする団体に加入してない (50代 男性)
- ・団体による活動には参加しなくても、個人で環境保全ができると思う (50代 男性 他 1名)
- ・まずは家庭内でやるべきだと思う (40代 女性)
- ・本当に効果があるのか懐疑的である (20代 男性)
- ・以前は、自治会で清掃活動があったが、今は無くなった (60代 女性)
- ・その他のボランティア文化活動をしているため (60代 女性)
- ・要請があれば参加したい (70歳以上 女性)

Q7 参加している環境保全活動の形態について。

- ・大学での活動 (20歳未満 男性 他 3名)
- ・県、市町村のボランティア (20代 女性 他 2名)
- ・地区での活動 (20歳未満 男性 他 2名)
- ・消費者グループ等の活動 (70歳以上 女性 他 1名)
- ・会社で活動に参加 (30代 女性 他 2名)
- ・家庭で (60代 男性 他 6名)

Q8 環境保全活動に携わって、良かったと思うこと。

- ・環境保全の意識が高まった (50代 男性 他 3名)
- ・様々な環境問題を知ることが出来た (70歳以上 女性 他 2名)
- ・文化的、歴史的な価値があるものを残すことが出来てよかった (30代 女性)
- ・役に立っているという達成感 (20歳未満 男性)

Q9 食品ロスを削減するため、買い物の際に実践していること。

- ・まとめ買いをしないで使いきる (40代 女性 他2名)
- ・干物、紅茶など溜め込みがちなもの、一定期間買わずに使ってしまう (50代 女性)
- ・仲間で流通システム (60代 女性)
- ・野菜等でも冷凍食品で購入しロスを減らす (40代 男性)

Q10 食品ロスを削減するため、調理・食事の際に実践していること。

- ・食べ残さない (50代 男性 他2名)
- ・外食はほとんど無し・買ったものは使い切る (60代 女性)
- ・物により量を多く作って子供たちや一人暮らしの人にあげる (70歳以上 女性)
- ・作り過ぎたら、冷凍保存している (40代 女性)

Q11 家庭からでるごみを削減するのに効果的と思うこと。

- ・冷蔵庫に残っているものを使い切る献立を考える (70歳以上 女性)
- ・何とか捨てずに使ってくれる人を探せるような仕組みがあればいい (50代 女性)
- ・分別しやすい包装になるといい (20代 女性)
- ・包装や袋をことわる (30代 男性)
- ・ゴミの出る食品(缶詰やカップ麺)などをあまり買わない (20歳未満 女性)
- ・市のバイオ利用に参加 (60代 男性)

Q12 富山で環境保全に対する取り組みを推進する上で、行政や企業に望むこと。

自治体

- ・いろいろな環境保全活動の利点と欠点を正しく公表してほしい、特に利点しかないものは信用できないため、欠点を隠さないで欲しい (20代 男性)
- ・行政がもう少し環境保全をアピールするべきで、それによって企業や県民も取り組んでいけるのではないのか? (40代 女性 他1名)
- ・日常的なこと、身近なことに視点をあて、予算を組んでほしい (60代 女性)
- ・ゴミ集積所をもっと見直し、地元の声聞いてほしい (60代 女性)
- ・しっかりとした情報発信し、国のいいなりにならない (60代 女性)
- ・各地区に不法廃棄防止、資源再生を目的に、町内会のごみステーションに規格寸法以上の粗大の物を対象とする無料廃棄所の設置し、廃棄設置場所には非常勤の管理者を置く(シニア世代可) また、一年に3回リサイクルショップを行う (70歳以上 男性)
- ・街路樹を取り払わないで欲しい 木の枝を必要以上に切らないで欲しい
歩道などに除草剤をまかないでほしい 車道に融雪剤を撒かないでほしい (60代 女性)

- ・森林の地境確定事業の拡大 (30代 男性)
- ・住民が気軽に参加できるイベントの開催 (60代 女性)
- ・省エネ製品への購入補助 (60代 女性)
- ・交通機関 (公共) の整備 (40代 男性 他2名)

(学習教育)

- ・日本に居る外国人に環境の重要性をしっかりと教える (40代 女性)
- ・情報共有のための学習活動 (70歳以上 男性)
- ・高度成長期を知る大人の教育が必要 (30代 男性)
- ・誰もが気軽に参加でき、気付きを持ってもらえるようにする (50代 女性)

外食産業

- ・企業 (コンビニ、スーパー) などの廃棄物をなくする (20歳未満 男性 他1件)
- ・外食の場合でも (定食等)、量を調整できるようにしてあると残さずにすむ
(40代 女性)
- ・24時間営業をなくす (50代 女性)

包装、袋

- ・各商品についている無駄な包装が多いので、減らして欲しい (ゼリーについている紙や
ネット通販の梱包等) (50代 女性)

その他

- ・建造物の建設にリサイクルのシステムを徹底する (50代 女性)
- ・パフォーマンスでなく、実質的な活動にしてほしい (60代 男性)
- ・クールビズ促進、スーツ廃止 (20歳未満 男性)
- ・週に1回ベジタリアンデーの創設 (30代 女性)
- ・農業の無農薬化 (50代 男性)

2 自由意見

「富山物質循環フレームワーク」の取組みを推進するために重要と思うこと。

行政に期待すること

- ・行政と民間の相互理解の促進と役割分担の明確化を図ること。 (40代 男性)
- ・地域ごとのモデル化が必要。 (70歳以上 男性)
- ・居住地の範囲（自治会など）の活動として、住民の合意形成に努め、実践していくことが大切と思う。 (70歳以上 女性)
- ・買い物に行く交通手段が少ないと、どうしてもまとめ買いで多くのものを買ったり、不要品を買ったりする。費用が安く、便利な交通手段があると良い。 (50代 男性 他1名)
- ・関係行政機関は、県民が取り組む意識を明確に持つための学習指導をし、リードする事が大切だ。 (70歳以上 女性)
- ・国際的な協調や、3Rの実行（環境問題への取り組みや理解） (20代 男性)
- ・海岸清掃時のゴミ等は3～4ヶ月も回収せずそのまま放置されている。先進7カ国環境大臣会合はあっても、目に見えない箇所は取り残されている。役所に言っても予算がないので回収できないそうだ。どうすればゴミの山が無くなるのか。 (70歳以上 男性)

広報 PR

- ・「富山物質循環フレームワーク」のことが周知されていないように感じる。日常生活の中で実践出来る事例を示しつつ、広報（メディア）などで周知していく事が第一と思う。 (30代 男性 他1名)
- ・富山県の環境状況や、環境保全のための具体的な方法を、CMなどで消費者に対して宣伝する。 (20歳未満 男性)
- ・広報やtwitter等で、随時、情報を公開・提供してほしい。 (40代 女性)
- ・飲食店などに貼ってある「食べキリン」のような活動を継続的に行えばいい。 (60代 女性 他2名)
- ・どの行動がどれだけ環境に影響を及ぼすかについて、数値などを使って明確に示すこと。 (20歳未満 男性)
- ・他県に比べ、エネルギー消費量の多い本県においては、その原因と対策を十分認識し、活動に反映させるべきである。 (60代 男性)

報償等

- ・国や県が先導して環境保全の仕組みづくりをして、アメとムチ（報償、罰則）等により企業や県民に働きかけることが有効である。 (50代 男性)

- ・ホテル、飲食店などが出すゴミの量に一定の制限をもうける（限度を超えたら罰金を課すなど）。 (30代 男性 他1名)
- ・環境保護に寄与した企業に対して、税、表彰、公営事業への優先策等により支援する。 (60代 男性)

食品ロス

- ・食品ロスの削減対策は、県全体で、個人、家庭、事業者など誰もが取り組める具体的かつ詳細な方法を検討し、提示して取り組むことが必要だと思う。 (50代 女性)
- ・コンビニなど大量に食品を廃棄する店への対策が必要である。 (20代 男性 他2名)
- ・持ち帰ることができたらもっと食べ残しが減ると思うので、「持ち帰られますか？」とラップや袋を提供してくれるお店が増えたら、こちらもち帰しやすいし、お店のゴミも減っていいと思う。 (50代 女性)
- ・食べ残しをゼロにするのは困難なので、動物のえさなどに循環させる仕組みを構築する。 (50代 男性)
- ・食べ残し問題は早急に解決すべきだと思う。人として最重要案件に感じている。 (40代 女性他1名)
- ・食品廃棄物が1日単位、月単位、年単位とどれだけ発生しているかという現状を県民が知らなければ、意識は変わらない。 (40代 男性 他1名)
- ・賞味期限が切れそうになったら、コンビニでもスーパーみたいに値段を下げるなど、消費者に買ってもらえるようにするとよい。 (20歳未満 女性)
- ・今後も、買い過ぎない！食べ残さない！作り過ぎない！まずは、出来ることから今まで以上に実行しようと思う。 (60代 女性 他2名)
- ・食品の買い方（売り方）や、エコクッキングの仕方、堆肥化などについて、公民館活動、学校教育、出前講座などで、環境教育の機会を増やす。 (30代 女性 他2名)
- ・ばら売り、量り売りなど、必要に応じた食材、食品が購入できるスーパーが増えるように後押しする。 (50代 女性)
- ・小売業の納品期限、賞味期限に対する考えを緩和する。2/3ルールの改正など。 (60代 男性 他1名)

行動・意識

- ・スーパーやコンビニでのおかずコーナーの多種多品を見るたびに、私たちの生活実態の変様に複雑な思いがする。人々のニーズとはいえ、便利性、効率性のみではいけないのでは。労働現場など根本的に変革せねば、とりわけ生活にあらゆる面で余裕がない（余暇がない）残ったおかずは廃棄処分される。 (70歳以上 男性)
- ・自分自身に関わる問題であることと捉え、無理のない程度で、確実に実行していくことが大事である。 (40代 女性)
- ・身近で取り組めるものは積極的に参加してもらおうよう啓発する。 (50代 男性)

- ・「誰かがやればよい」と人任せにするのではなく、国民、県民一人ひとりが主体的に、食品廃棄物の削減などに取り組んでいくことが重要。(20歳未満 男性 他1名)
- ・災害廃棄物の再利用に係るコスト（運搬に係るガソリンや再利用する時に掛かったエネルギー）を公表して、それでもプラスになる仕組みだということを示す。(20歳未満 男性)
- ・廃棄物そのものの、汚い、安全でないというようなイメージをなくす。(20代 女性)
- ・取り組みの必要性、重要性、内容をわかりやすく具体的に広めることが重要。(20代 女性 他1名)
- ・大きく考えると、なかなか無理な取り組みになり持続できない面が多いと思う。各家庭が小さなことを心がけることが一番大事だと思う。(40代 女性)
- ・環境問題について個人が自身に関する事として意識を持ち、身近なことから取り組んでいくことが重要であると思う。(20代 男性 他3名)
- ・家庭から食品ロスをしないよう日々努力する。コンポストなどを有意義に活用したい。(60代 女性)
- ・生ゴミはコンポストなどを利用し、出来るだけ自然に帰すように各家庭での取り組みを推進する。地産地消を進め、生産者の顔が分かる販売をする事で消費者のものを大切に意識が生まれ、食べ残しも少なくなると思う。(家庭菜園も意識向上に役立つ。)(20代 女性)
- ・毎日の生活パターンを元に気軽に自然に廃棄物の削減を進めていきたい。とにかく資源を大切にすることを意識した生活を身につけたいと思っている。(70歳以上 女性)
- ・一人一人が環境の事をもっと自覚して日頃から実行してほしい。(60代 女性)
- ・原子力発電は絶対反対する。事故が起これば環境も何もあったものではない。(70歳以上 女性)

仕組みづくり等

- ・働く女性が多い富山県では、時間がかかったり手間がかかる取り組みでは絶対に受け入れられないと考えられる。手間が掛からず、時短！これが成功する鍵だと思う。(40代 女性)
- ・時間の制約がなく一人一人が都合の良い時間に環境に良いことを取り組むことが出来、しかもメリットを感じることが出来る仕組みづくり。環境活動をエコや健康づくりに同時に役立つといったキャッチコピーの取り組み。(50代 女性)
- ・食料自給率40%という数値をきちんと受けとめて、消費者、生産者、事業者が一体となって、地元重視の具体化な行動に結びつけていけばいいと思う。(70歳以上 女性)
- ・まずはこの取り組みをみんなに知ってもらうことが重要だと思う。(20歳未満 女性 他2名)
- ・食品の量り売り、パック持参の場合はエコポイントがつくなどにより、レジ袋削減のように全県的なトレーやプラスチック包装容器の削減につながるとよい。(30代 女性 他3名)

- ・本来当たり前前を、義務的ではなく普通に実践できるような環境を整える。
(60代 男性)
- ・地球温暖化は人間の暮らしが招いたものである以上、人々の暮らし方を替えなければ今後も大災害が続くと思われる。今、私たち一人ひとりが出来る事の例として3Rの徹底、ごみや食品廃棄物の削減がある。また、行政に望むこととしては、食品廃棄物の削減のための、食品業界・飲食業界等への理解を深める、フードバンクの仕組みづくり、環境教育(大人にも子どもにも)の徹底などがある。
(70歳以上 女性)
- ・具体的な行動について、現在起きている現実への悪影響を広く伝える。
(30代 女性)
- ・クリーンエネルギーだけを使用するような技術の発展。
(20歳未満 男性)
- ・先進的なリサイクルセンターの整備。
(50代 男性 他2名)
- ・食品廃棄物の再利用をするための方法を考え、広める。
(40代 男性 他1名)
- ・フードバンク富山のように、賞味期限がまだ先の食品でも捨てられそうになっているものを、福祉施設や福祉団体に届けることで食品廃棄物を抑制する取組みや、地産地消の取組みは、有効であると思う。頭の中では分かっていたつもりでも、「富山物質循環フレームワーク」の提言を受けて、実際プレッシャーを感じている。
(40代 女性)
- ・食品廃棄物の肥料化を行い、肥料を農家に提供する。
(20歳未満 女性)
- ・レジ袋有料化のように、消費者と関連企業の具体的な連携が最も重要と考える。
(50代 女性)
- ・飽食の時代に区切りをつけて、昔ながらの粗食を見直して健康に留意するように出来ればよいと思う。食品廃棄物削減⇒人の健康を取り戻す⇒医療費削減
(60代 男性)
- ・消費者が求めやすい量的なもの、例えば野菜などは、ビニール袋やパッケージ化しないで、1個から求められるよう、かつての市場的な販売方法を取るなどはいかがか。
(70歳以上 女性)
- ・いらなくなったものは再利用したり、フリーマーケットに出したりしてもらおうようにもって呼びかけることが重要だと思う。また、地域にフリーマーケットの場所をもっと多く取った方がよいと思う。
(20歳未満 男性)
- ・食品の入っているトレーや入れ物を変え、企業と連携し、デポジット制度を採用する。
(20代 男性)
- ・昔の日本のように、自然から使われた商品を使ったり、必要な食べ物のみを買うように心がけるような取り組みを行う。食べ物も簡単で保存の効く調理法を考え、食べ残してもまた食べられるようにする。災害廃棄物は直してまた再利用できるものもあるため、手間はかかるが廃棄する前に修理ができるか検討する必要があると考える。
(20歳未満 男性)
- ・様々な種類の廃棄物の処分ルートについて、市民に公開し、市民が理解することが重要と考えます。
(50代 男性)
- ・災害廃棄物の再利用(エネルギー源として)。
(60代 女性他1名)

- ・飲食店などの食べ残しを削減する際は、同じメニューで量を少なめにしたメニューを増やすことぐらいしかできないのではないかと思います。特にコースメニューなどは比較的ゴミが増えるのは仕方ないことだけれど、完食（全員）でクーポン券をつけたり、合計の会計から割引サービスなど、もりこんでみても良いかと思います。（20代 女性）

教育等

- ・若い世代の食品廃棄に対する意識を変える必要があると思う。まず、給食や学食で食べ残しを減らすことから始めることが大切だ。（20歳未満 女性）
- ・小中学校で、学校給食を基本とした食育とあわせ、教育の一環として取り組む。そうすれば子供たちが大人になっても高い意識をもって、対応できるのではないか。（40代 男性 他1名）
- ・国際的な取り組みを打ち出された中、富山県で行われたG7について一人ひとりが意識を持ち、大きなことではなく、県民各自が、何ができるのかが問われていると思う。学校教育の中でも物質循環フレームワークの重要性を身近な問題として学ぶ時間を持つてもいいのではないか。（60代 女性）
- ・学校での給食の食べ残しが段々増えてきて、過去最大の廃棄量になっていると聞いた。子どもの頃から、食品廃棄物によるマイナスや資源の活動方法などの学習をもっと増やし、教育してほしい。（40代女性 他1名）
- ・加工品等の消費期限の適正と期限切れ商品の再利用。外食産業メニューの量の細分化。国民一人一人の意識を高める等、教育の中に取り入れる。（60代 女性）
- ・日本語の「もったいない」を広める。食べ物の感謝の気持ちが芽生えるような教育を行う。（谷川俊太郎著「しんでくれた」など参照）（40代 女性）
- ・資源を無駄にしないため必要量を買うことを心がけ物を大切に使うこと、食べ物を捨てないように、子供の時から教えて身につくよう地域が働きかけることが必要であると思う。同時にそれを教えられるように大人の意識改革が重要と考える。（30代 女性）
- ・小学校で、「家族で出来る1週間省エネ、省ゴミチャレンジ」と題して期間を決めて家族で取り組む機会を作り、これなら出来るなど話し合いをさせて、継続できるものは続けてもらう。次世代の教育にもなる。（40代 女性）
- ・環境教育を促進し、正しい物質循環の方法をしっかりと理解した上で活動する事が重要。（20歳未満 女性 他1名）
- ・ムダやロスの多い実態を広く知らせ、企業、消費者、こどもから大人まで、地道な啓もう活動と教育が重要。（50代 女性）
- ・県内で活動するフードバンク団体などの活動をもっと広め協力しあうことが大切である。（40代 女性 他2名）

VI 調査票

環境にやさしいこと、環境に良いことしていますか？

～とやまの美しい森・里・川・海を未来に残すために～

平成28年6月

富山県消費者協会・消費生活研究グループ連絡協議会

<アンケートの目的>

世界の環境を守るための先進7か国環境大臣会合が富山県で開催されました。その中で、持続可能な社会の目標達成に向けて各国で取り組むことが合意され、また地域での取り組みの重要性も確認されました。

かけがえのない地球環境を守るためには、一人ひとりが自主的で積極的に環境に負荷をかけない行動や環境保全活動への参加が求められます。持続可能な社会を形成していくために、私たちは、今後何をしていくべきか、を模索するためにアンケート調査を行います。

*回答いただいた内容につきましては、統計的に処理をして、個人のご意見を公表したり、調査の目的以外に使用することはありませんので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

<回答方法>

- ・全部で6ページあります。当てはまる番号の□にレ印をつけてください。
- ・**Q2**については、あなたのお考えに最も近い番号に○印をつけてください。
- ・「その他」の項目を選択された場合は、お手数ですが、()内に具体的な内容をご記入ください。

○あなた自身について、お聞きします。(記入漏れにご注意ください。)

- ・性別 ①□ 男 ②□ 女
- ・年代 ①□ 20歳未満 ②□ 20歳代 ③□ 30歳代 ④□ 40歳代
⑤□ 50歳代 ⑥□ 60歳代 ⑦□ 70歳以上
- ・職業 ①□ 給与生活者 ②□ 自営・自由業 ③□ 家事従事者
④□ 学生 ⑤□ 無職 ⑥□ その他 ()
- ・住所 (市町村_____市・町・村)
- ・住居の形態 ①□ 戸建 ②□ 集合住宅
- ・家族人数 ①□ 1人 ②□ 2人 ③□ 3人 ④□ 4人 ⑤□ 5人
⑥□ 6人 ⑦□ 7人 ⑧□ ()人

I 社会問題、環境問題への関心

Q1 環境問題を含めた社会問題について、あなたが特に関心を持っていることを選んでください。(5つまで)

- ① 経済の活性化や就職支援など、経済・労働環境に関すること
- ② ごみや大気・川の汚染など、地域の生活環境に関すること
- ③ 森林の荒廃や野生動植物の保護など、自然環境に関すること
- ④ 地球温暖化やオゾン層の破壊など、地球規模の環境に関すること
- ⑤ 原子力発電や太陽光発電など、エネルギーに関すること
- ⑥ 地震・豪雨・噴火など、自然災害に関すること
- ⑦ 医療機関の充実など、地域医療や福祉に関すること
- ⑧ 保育サービスの充実や学力向上など、少子化対策・子育て支援・子どもの教育に関すること
- ⑨ 公共交通や自主防災活動、防犯対策など、生活の利便性・地域コミュニティ・犯罪防止に関すること
- ⑩ その他 ()

Q2 あなたは次の環境問題について、どの程度関心をお持ちですか。以下のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	非常に 関心がある	関心が ある	関心が ない
① 二酸化炭素などによる地球温暖化	1	2	3
② フロンガスによるオゾン層の破壊	1	2	3
③ 石油など大量消費による資源の枯渇	1	2	3
④ 自動車などの排気ガスによる大気汚染	1	2	3
⑤ 地下水の汲み上げによる地盤沈下	1	2	3
⑥ 家庭や工場からの排水による水質汚濁	1	2	3
⑦ 都市化や観光開発による自然景観や野生動植物への影響	1	2	3
⑧ 不法投棄や廃家電などのごみ処理やリサイクル	1	2	3
⑨ ダイオキシン類などの化学物質による環境汚染	1	2	3
⑩ 放射性物質、黄砂・PM2.5などの越境汚染問題	1	2	3
⑪ 太陽光・水力・風力発電などの再生可能エネルギーの活用	1	2	3
⑫ その他 ()	1	2	3

- ⑰□ 減農薬の野菜を購入している
⑱□ その他 ()

Q5 家庭で取り組める省エネ対策について、効果的と思うものを選んでください。(いくつでも)

- ①□ 使っていない部屋の照明はこまめに消す、シャワーを流しっぱなしにしないなど、環境配慮の行動をとる
②□ 分散して生活しないで、リビングに集まり一家団欒などの生活スタイルに変える
③□ 熱中症の発生にも留意しつつ、エアコンの適正温度の設定や、自然風等も取り入れる工夫をする
④□ 自家用車の使用を減らし、公共交通機関等を利用する
⑤□ 再利用可能な素材や自然素材で作った商品を選ぶ
⑥□ 住宅設備や家電製品・自動車などを省エネ性の高いものに交換する
⑦□ その他 ()

Q6 あなたは、どのような環境保全活動に参加していますか。(いくつでも)

- ①□ 環境に関する学習会
②□ 公園・道路などの清掃活動
③□ 川・海をきれいにする活動
④□ 花や緑を育てる活動
⑤□ 森づくりの活動
⑥□ ホタルなどの生物を呼び戻す活動
⑦□ 歴史的な遺跡や建物を保全する活動
⑧□ 環境保全に関する募金活動
⑨□ その他 ()
⑩□ 参加していない。(その理由)

Q7 Q6の質問で、環境保全活動に参加していると答えられた方にお聞きします。あなたが参加している環境保全活動の形態を選んでください。(いくつでも)

- ①□ 少人数の有志グループでの活動
②□ 自治会・町内会・学校などの集まりでの活動
③□ 環境活動団体やNPO法人などによる活動
④□ 所属企業による活動
⑤□ 環境保全に関する募金活動
⑥□ その他 ()

Q8 Q6の質問で、環境保全活動に参加していると答えられた方にお聞きします。あなたがその活動に携わって、良かったと思うことはなんですか。
(いくつでも)

- ① 森・川・海などの自然の豊かさを感じることができた
- ② 身近な環境がきれいになってうれしかった
- ③ 活動を通して、仲間との交流が深まった
- ④ メダカ・ホタルなどが戻ってきてうれしかった
- ⑤ 子どもの環境教育を通して、家族や地域の環境への意識が広がった
- ⑥ その他 ()

Ⅲ 環境保全に対する取り組み

Q9 先進7か国富山環境大臣会合では、資源効率性・3Rの推進の具体的な対策として、食品ロスの削減に取り組むことが合意されましたが、食品ロスを削減するため、買い物の際に実践していることを選んでください。
(いくつでも)

- ① おつとめ品や消費・賞味期限の近い食品から選ぶ
- ② あらかじめ献立を考えて、計画的に購入する
- ③ 冷蔵庫内にある食材を確認し、必要なものや必要な量のみを購入する
- ④ バラ売りや少量パックなど使い切ることができる商品を購入する
- ⑤ その他 ()

Q10 食品ロスを削減するため、調理・食事の際に実践していることを選んでください。(いくつでも)

- ① 消費・賞味期限の近い食材から調理する
- ② 食べきれ的分だけ調理し、作り過ぎないようにする
- ③ 野菜の茎や皮などを安易に捨てず利用する (エコクッキング)
- ④ 外食時は食べきれる量を注文する
- ⑤ 残った料理をリメイクする
- ⑥ その他 ()

Q11 家庭から出るごみを削減するのに効果的と思うものを選んでください。
(2つまで)

- ① 買いすぎない
- ② 故障した家電などは、修理してできるだけ長く使う
- ③ いらなくなかったが、まだ使える物は、リサイクルショップに売ったり、フリーマーケットに出品したりする
- ④ 食品廃棄物の肥料化 (コンポスト) を行う

- ⑤□ 草や枝、食べ残しなどは、乾燥させてからごみ出しをする
⑥□ その他 ()

Q12 今後、富山において環境保全に対する取り組みを推進する上で、あなたが、行政や企業に望むことは何ですか。(いくつでも)

- ①□ レジ袋削減のような、「広がり期待できる、地道な活動」を全県的に展開する。(県民総参加型)
②□ 量り売りなど必要な量だけ購入できる仕組みを増やす
③□ 子どもから大人まで環境教育を促進する
④□ 消費者と企業が環境保全活動について話し合う機会を設ける
⑤□ 環境保全に寄与する企業を応援する仕組みを作り、活動を促進する
⑥□ 森づくり税などの、誰もが環境保全に協力しようと思える仕組みを作る
⑦□ 今までの省エネ活動を継続するとともに、省資源、省エネの新技术を導入し環境型の社会システムに変えていく
⑧□ その他 ()

○先進7か国富山環境大臣会合(平成28年5月15~16日)の共同声明附属書として採択された「富山物質循環フレームワーク」(*)の取り組みを推進するには、どのようなことが重要と思われますか。ご意見、ご感想をご自由にご記入ください。

(*)「富山物質循環フレームワーク」

食べ残しなどの食品廃棄物の削減や災害廃棄物の再利用など、資源の効率的・最大限の利活用に先進7か国が取り組む枠組み。総合的な政策を推し進め、国内外での着実な検証方法を確立することなどを求めている。

ご協力ありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせ先
富山県消費者協会(富山県民共生センター内)
TEL 076(432)5690
FAX 076(432)5693

「環境にやさしいこと、
環境に良いことしていますか？」
～とやまの美しい森・里・川・海を未来に残すために～
調査報告書

富山県消費者協会

〒930-0805

富山市湊入船町 6-7

(富山県民共生センター内)

T E L 076-432-5690

F A X 076-432-5693